

# 三河本苑だより

10月号

2024・10 No.509

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

## 就任ご挨拶

大本三河本苑長 牧 武

初代本苑長高須令三先生より、奥谷先生、野田先生、松井先生、黒部先生と続き、三浦相談役、野田相談役そして加藤前本苑長まで8名の諸先輩が紡いでみえた「三河本苑」のバトン(歴史)を今引き継ぐことになりました。



思い返せば50年前、当時本苑昇格の機運に乗って信徒の皆さんも生き生きと活動してみえました。参拝者は旧本苑建物の中にぎつりとみえ我々はやむなく外から参拝するほどでした。山崎先生の名司会に、皆さん笑い声が絶えず明るい雰囲気でした。時には、令三先生が「祭典中ですが皆さん静かに!」と声を荒げていたのも良き思い出です。現在のように冷暖房設備はありませんでしたが、とても心地よい感じがしたことも思い出されます。



当時青年部でお世話して下さった先輩方の、祭員及び伶人姿もとても凛々しくみえ惚れたものでした。また「夏季学級」は東海教区合同で開かれたこともあり、次から次へと青少年が集まりとても賑やかで、お世話くださる婦人部(現直心会の皆さまの迫力に圧倒されたものでした(笑))。時には「ものの道筋が違う!」とお叱りをうけ、関係各所に謝ったことも多々ありました。(反省・・・)



今思うと「良き人生勉強をさせていただいた」と感謝しております。

さて、新しい神の家が完成して早や2年が経過します。信徒数も激減しており、後継者不足と相まってとても厳しい船出となりました。中には信仰そのものを止めてしまう世帯も増えており、私の初仕事も「信徒削除届」の申請書署

名でありました。

「魂が宿らねば本物ではない」と云われるように、神の家に魂が宿らなければ(信者の皆さんの真剣な祈りがなければ)何にもなりません! まずは、教主さまがおっしゃるように神さまを信じやるように神さまを信じる力「**信仰力**」及び神さまのみ教えを素直に踏み行う「**実践力**」を身に付けましょう。

そのためには何が必要か、皆さん一人一人が真剣に考え取り組んでみましょう!



答えは必ず出てくると思いますが、**「強く正しくニコヤカに+まつこころ」**で頑張りましょう! よろしくお願いたします。

「試みにあふも 憂いの雨ふるも 悔やまず おじず 神にまかせよ」

愛善歌「試練」

### 【聖師様の愛善の道】

ちりほどの罪過ちも重なれば

身を亡ぼすの種とならん

よきことをなせば靈魂(みたま)のふゆるなり

悪事は魂(みたま)の力をうしろう

## 令和6年 三河本苑秋季大祭・秋季合同慰霊祭のご案内

【日時】令和6年10月20日(日) 午前10時より

【場所】大本三河本苑

【諸行事】・記念講話・冠沓句巻開き  
・大祭添釜・信徒作品展

【講師】特任宣伝使 芝田豊海

【講題】「人は何のために生きているのか?」

《◎募集!! 冠沓句は9月月次祭まで、信徒作品は大祭前日午後1時、藤浦まで》

前日10月19日(土)午後1時より  
全員参加の本苑清掃を行います。役員の方は、午前10時より駐車場草取りにご協力をお願いします。

### 十月の行事

●18日(金)

教主さま「染筆

香良洲神社・大本友好

祈念碑除幕式

●18日(金)

霊界物語全国一斉

拝読会

●20日(日)

本苑秋季大祭・

秋季合同慰霊祭

・大祭記念講話・大祭添釜

・奉納冠沓句・信徒作品展

十一月の行事

●3日(日)

開祖大祭 (綾部)

梅松苑お茶席ご奉仕 (直心会)

●17日(日)

本苑十一月月次祭



十月添釜 祝秋季大祭奉納

## 大祭添釜

献茶席 午前九時

信徒席 祭典後

茶道部/直心会

三河本苑公式LINE



↑ コチラから 本苑だより更新中

# 教主様ご染筆香良洲神社・ 大本友好祈念碑除幕式

日時/ 10月18日(金) 午前10時30分  
場所/ 香良洲神社

## 宣伝使・宣伝使に なるための研修会

- ◆とき/ 9月29日(日)
- ◆ところ/ 大本三河本苑
- ◆講師/ 特派宣伝使 前田茂太先生
- 対象/ 宣伝使および宣伝使になれる方
- 持ち物/ 令和6年教団方針・み手代・み手代お取次ぎ手帳・宣伝使の心得

### 靈魂の恩頼 3 (みたまのふゆ)

(大正14年12月)「日出磨先生之旧稿」 p56より

自分で自分を見凝(みつ)め  
ておる習慣をつけねばならぬ。  
人は先ず第一に自己に目覚め  
ねばならぬ。事々に公平無私、  
虚心坦懐で内省することを怠つ  
てはならぬ。ほんとうに自分  
が判れば一切が判る。自分が  
判らぬ間は判らぬ。

自分の内界が闇である間は  
見るもの聞くもの悉(ことごと)く  
が黒である。

自分の心に光がつかいたら一切  
が見え、一切が聞こえ出す、われ

ず闇に物を見ようとあせつ  
ている。

自分の心そのものが神心にならな  
くては、決して神が見えも聞えも  
するものでない。だから、いくら  
真理を説いても対象がぼゞそれだ  
けの世界に住いしていなかったら、  
猫に小判である。この意味に於  
て、真理はあくまで相対的であ  
る。飢餓の人には食が真であ  
り、凍死者には暖が真であ  
る。教説も亦対手の証覚相応  
でなくてはならぬ。手近な話

しが却(かえ)つてよく分かるも  
ので、靈的な人はそれを自分相  
応に非常に高尚優美に感得し、  
物的な人は相応の利害得失だけ  
にしかとらない。

○ 嬰兒(えいじ)の時代は全然  
母の手によつて育てられ、やや進  
んでは飲食の勞、大小便その他  
喫緊(きつじん)の要事のみは自  
分が処置するけれども、未だ生活  
の大部分は両親家族の手によつ  
て補助されている。況(いわん)  
や精神的に至つて悉(ことごと)く  
他より注入されて智慧(ちえ)  
づいてるのである。 つづく

らは往々  
先ず灯を  
點(つ)け

### 私の思い 「短歌継続について」

米津支部 山田 廣

毎日の御神書拝読が大変で、短歌を辞めようと思  
っていたのですが、拝読中に数首でもいいから続けるよ  
うにとの思いが、1・2回頭に浮かんできて真剣に歌作  
りについて考えるようになりました。

靈界物語の中で、「素盞鳴の神の命の作らしし三十一  
文字は言靈の本よ」の神歌にとても驚きました。

又、靈界物語の中で、「すべて歌は天地神命の聖慮を  
やわらげ、万有に陽気を与え、神人の心魂を照り明かす言  
靈の精華となり、言靈の清く朗らかなる神人は、すべて  
和歌によりて難問題を解決せんと努力したりける。」との  
神歌と物語の中での説明に、とにかく短歌を続けてい  
こうという気持ちに改めてなり、支えにもなっています。

「木の花短歌」は、日々の生活の歌、又歌祭りは神様  
に関する歌だと思います。佐々木先生に冠沓句の事を  
聞きましたら、短歌を作るための遊びと言うようなこと  
を聞きました。自分としては、短歌、冠沓句等末永く  
頑張つて続けて行きたいと思っています。

短歌を始めたのは、支部長夫婦がやっていたのがき  
っかけです。今は、吉良歌会に入って毎月2首、木の花短歌  
で4首出しています。本部の冠沓句も30年近く続けて  
毎月出しています。自分としては少しでも多くの方が短  
歌を出していただくことを願っています。佐々木先生が  
「素直に歌を作ることが大事です。」と言われましたの  
で、そういう気持ちで歌作りに励んでいきたいと思っ  
ています。

【お詫び】  
本苑だより9月号  
「献納御礼」の琴献納者は、  
三河一色分所神谷泰子様で、  
二村和子様は誤りでした。  
お詫びして訂正いたします。

ひと時 9 ころばやし 4  
君の靴は「瞬足」  
君は小学4年生、とにかく  
動くことの好きな男の子  
いつも家の前を走っている  
運動会が近づき、少しでも  
速く走りたいと走っている  
見た目は速いが、さらに  
もっと速く走りたい  
ある日、強い味方があらわれた、  
それは「瞬足」の靴  
じいちゃん見て、  
一緒に走ろうという  
気持も高まり、君は  
速くなったと喜んだ  
運動会の日、  
一番になりますように  
じいちゃんは祈る  
結果は残念ながら  
賞には入れなかった  
いま思えば、  
全員が「瞬足」をはいており、  
みんなも速い  
いつもと変わらぬ  
結果となりました  
でも、君のがんばりは、  
じいちゃんは大好きです